

国公立大学附属病院医療安全セミナー

# 患者の医療参加のための COMLの取り組み

NPO法人ささえあい医療人権センターCOML  
事務局長 山口 育子

# COMLとは

1990年9月 スタート  
2002年4月 NPO法人

患者の主体的医療参加

合言葉  
賢い患者にな리ましょう

患者と医療者の  
コミュニケーション

# COMLの活動 (2010年4月末現在)



講演:2688回

研修や活動紹介:37回

相談:47401件



SP活動:1066回(OSCE259回)

病院探検隊:66回



コミュニケーション講座:63回(出前13回)



医療で活躍するボランティア  
養成講座 (2009年度new!!)



患者塾:172回

# ミニセミナー「患者塾」

- 合言葉「賢い患者になりましょう」
- 1991年1月から開催（2010年6月で173回開催）
- 毎回異なるテーマを設定
- 専門家・体験者などによる話題提供で、医療におけるさまざまな情報を知る
- 患者・家族・医療者からなる参加者が意見交換・知恵を出し合うディスカッション
- 「対話・気づき合い・歩み寄る」関係づくりの場

# 最近の患者塾のテーマ

- 第172回 シリーズ これで納得！ 病院で支払うお金 ～基礎編～
- 第171回 死因究明の専門家 法医の役割)
- 第170回 病気の最終診断 病理医の役割
- 第169回 シリーズ認知症とともに② 家族・介護者が語る“認知症”
- 第168回 シリーズ認知症とともに① 専門医が語る“認知症”
- 第167回 歯無しにならない十箇条
- 第166回 いまこそ“賢い患者になりましょう”
- 第165回 あなどっていませんか？ 皮膚の病気
- 第164回 上手な終末期の迎え方
- 第163回 病とともに生きる⑤ ～抗がん剤治療・生活編～
- 第162回 病とともに生きる④ ～抗がん剤治療・治療編～
- 第161回 中高年に多い病気と健康法
- 第160回 いろいろある介護施設 どう違うの？ ～その種類と特色～
- 第159回 こころの疲れと上手くつき合う方法
- 第158回 解消しよう!! 医療コミュニケーションの問題点
- 第157回 病とともに生きる③ ～心臓手術後の生活編～
- 第156回 病とともに生きる② ～眼の疾患編～
- 第155回 病とともに生きる① ～リハビリ編～
- 第154回 ここがポイント！ 今年の診療報酬改定
- 第153回 妻として夫の看取りに寄り添って ～家族だからできること、家族だから迷うこと～
- 第152回 病院の“安全対策” やっています、こんなこと、あんなこと

2009年度からの新事業

# 医療で活躍するボランティア養成講座

- 1講座3時間の7回講座
- 参加者：前期120名、後期80名
- 病気体験、病院ボランティア・傾聴ボランティア経験者、医療従事者など
- 「医療のことを広く学び  
かったが、どこにもな  
た。これだ！ と思った」
- 関西を中心に高知、鳥取、  
徳島、岡山、東京からも



# 講座の内容

## ①医療現場で期待されるボランティアとは

講座の目的・COMLの活動・ボランティアの種類と心得

## ②医療を知る

医療の変遷・医療機関や専門職の種類と役割・医療現場の課題

## ③COMLの相談対応の実際

相談対応の基本姿勢と実際

## ④相談対応に必要な情報や制度

病院選びと上手な医療のつきあい方、医療の情報と知識(前)

## ⑤相談対応に必要な情報や制度と実践

医療の情報と知識(後)・相談対応のロールプレイ

## ⑥コミュニケーション能力を高める

ワークショップ

## ⑦医療現場で活躍するボランティアの実際

実践者の体験報告・修了証授与

# COMLで大切にしている姿勢

- “対立”ではなく“協働”
- “受け身”から“自立”へと成熟した患者
- 主体的医療参加  
(いのちの主人公・からだの責任者)
- インフォームド・コンセントとコミュニケーションの充実
- 横並びの関係性とバランス感覚
- 思いの言語化(提言・提案)

⇒講座の目指すボランティア像



# 講座の目的

- ボランティアの種類、内容、特性を知る
- 医療の制度、知識、情報、課題を理解する
- 「賢い患者」になる意識を高め努力する
- 自分に合ったボランティアを考える

医療を改善

模擬患者  
病院探検隊

患者の自立支援

病院ボランティア  
患者情報室スタッフ  
傾聴ボランティア  
電話相談スタッフ

医療に提案

医療機関や  
行政機関の  
委員

# 時代の変化に伴う社会的な要求

- 医療者に主導権⇒患者と医療者の“協働”
- 地域医療への市民の声と参画
- 個人的な経験や意見⇒冷静・客観的な意見



医療を理解して参加し  
協働できるボランティアの必要性

# ボランティアの心得として倫理も

- **善意の押しつけをしない**  
「もっとお役に」「してあげたい」が高じると・・・
- **間違った情報提供をしない**  
個人的な経験、聞きかじりは危険
- **情報を漏らさない**  
噂話、必要以上の“聞き込み”にも注意
- **無責任な言動をしない**  
自己判断、勝手な変更、私語などに注意

# 変化し始めた患者・市民の意識

「医療にまつわる何かをしたい！」

お世話になった恩返しがしたい

もっと医療のことを知りたい、学びたい

同じ立場で患者さんの支援がしたい

外からの風を吹き込みたい



知識を得る 制度・しくみを知る 課題を学ぶ



さらに知りたい意欲

⇒協働できる冷静な患者・市民の増加

# さらに成熟した患者へ

- 自分のからだ・病気への関心
- 医療者や医療現場への理解

深まる

私にできることは  
何だろう…？

医療が個人的な問題から  
社会的な問題へ

意識の変化

# 患者の医療参加を推進するために

漠然とした掛け声⇒意識化の必要性

どう参加できるのか

なぜ参加する必要性があるのか

参加することでどんな効果や変化が期待できるか



患者側に理解を求める努力が不可欠



役割分担による協働が実現